2017 名古屋市長選が問うもの

2017 名古屋市長選

期日前投票所 名市大に設置

1日限定 18歳も投票

名古屋市立大学滝子キャンパス（同市瑞穂区）に13日、名古屋市長選の期日前投票所が1日限定で設けられた。同市長選では初めて有権者となった18、19歳の学生らも投票した。

投票所は、人文社会学部などが入る建物に設けられた。午前10時の開始とともに近所の住民らが投票に訪れた。授業の合間に来たという名市大1年の福島早耶香さん(18)は「わざわざ予定を空けて行かなくても投票できて便利。投票するのは初めてで、「新市長には給付型の奨学金など、教育政策を充実させてほしい」と話した。

名市大の学生8人も投票所運営の手伝いをした。投票管理者を務めた人文社会学部3年の五十嵐栞さん(20)は「学生が運営していれば、若い人も行きやすくなると思う」と話した。

名市大では昨夏の参院選でも1日だけの期日前投票所が設けられた。37人が投票し、うち8人が名市大の学生だったという。

投票所の運営の手伝いをする学生から投票用紙をもらう18歳の男子学生＝13日午前

朝日新聞4月13日夕刊の記事「期日前投票所 名市大に設置」に注目した。写真には「投票所の運営の手伝いをする学生から投票用紙をもらう 18 歳の男子学生＝13 日午前」と。投票管理者を務めた人文社会学部の 3 年(20)は「学生が運営していれば、若い人も行きやすくなると思う」と話した。

同日の日本経済新聞にも次の記事が。学生に運営参加を呼び掛けた、人文社会学部の三浦哲司准教授(34)は「学生にとってめったにない経験。運営に携わることで選挙に対する問題意識が深まる」と述べた。昨年の参院選の同キャンパスの 1 日限定の期日前投票所では近隣の住民や学生ら約 40 人が投票した。

平成28年度明るい選挙啓発ポスターコンクール愛知県入選作品

瑞穂区に住む知人も、滝子キャンパスの期日前投票に行った。学生たちが運営の手伝いをする投票所の施設と雰囲気に親しみを感じたという。私も「ふるさとキャンパス」で期日前投票したかったが、残念ながら瑞穂区民ではないので、味気ない？千種区役所で投票を済ませた。どうも出足はあまり良くない感じ。市長選の投票率が気がかりだ。

投票済証にあるように、名古屋市長選挙は 4 月 23 日執行。市長選挙で何が問われるのか、何を問わねばならないのか。期日前投票に際して、私なりに考えたことを記しておきたい。

現職の河村たかし候補は、2009 年の就任以来、「減税」「地域委員会」「中京都」などの公約を掲げて、ユニークな手法で市政を運営してきた。特異なキャラクター、市議会などと対立を繰り返す「劇場型政治」で支持を得てきた。市長選挙でまず何より問わねばならないのが、この 8 年間の河村市政の評価だ。

河村市長の政策は、しっかり検証されないまま、思いつきで次々と政策が繰り出されてきた感じが強い。市の職員も市長に振り回されてきた。8 年前には、とりわけ「減税」、4 年前には「中京都」構想が声高に叫ばれた。今回の目玉は、どうも「名古屋城天守閣の木造復元」のようだ。「中京都」構想などは、前回選挙からしばらくして聞かれなくなった。市民は「河村流くるくる変わる市政運営」を、どう評価するのだろうか。昨年 5 月に突如「解任」された前副市長で、弁護士の岩城正光氏が挑戦する。河村市政 8 年の政策、市政運営の手法などを、今度こそ有権者にしっかりと判断してもらいたい。

(2017 年 4 月 17 日)